

フットワークの良い医師になりたい

皆さん、こんにちは!

昨年10月に入職しました松尾です。以前は病院の循環器科に勤務していたのですが、研修医のころからずっと、三つ葉の在宅医療に憧れていました。自分が医師をめざす原点になった医療が、ここにあると思っていたからです。

病院の医療はどちらかというと、医師主導です。患者さんが「どうしたいか」よりも病気を治すことがまず優先されます。しかし、医療は「絶対」なものではありません。その方の人生と向き合って、その方の生きる力を感じ取れるような医師になりたい

と常に考えていました。

今、そういう医療をめざす場所に移り、「自分の居場所を見つけた」という気持ちで、充実感いっぱいです。同じような思いを持った医師やスタッフと一緒にがんばれることも、大きな喜びです。

これからますます感性を磨いて、患者さんが言葉にされないようなお気持ちを感じ取り、思いやり、困っていらっしゃる時に手を差し伸べられる存在でありたいです。その方に合った方法でお手伝いできる存在でありたいと思います。ちょっとしたことでも足を運んで、患者さんの良き相談相手になれる「フットワークの良い医師」が理想です。

末永く、よろしくお願いします!(松尾・医師)



● 掲示板 ●

●インフルエンザが流行っています。

今冬はスタートは遅かったですが、インフルエンザがかなり流行っているようです。予防接種を打っていても罹る方が出ています。

三つ葉では、常にインフルエンザの検査キットを往診バッグに入れて持ち歩いています。関節痛や発熱など「おかしいな」と思ったらご連絡ください。

外から帰ったら、うがい・手洗いを忘れないようにしましょう。



三つ葉のスタッフ紹介

こんにちは、総務の松本恭です。

私の担当は、医療や診療報酬に関する情報の収集、公的機関に報告する資料の作成などです。

また、医師、ソーシャルワーカー、診療サポート、医療事務からの保険関係(診療報酬)の問合せにも対応しています。診療報酬の改定時には説明会に参加し、医療費の請求を正しく行えるように努めています。

直接患者さんに接する仕事ではありませんが、患者さんやご家族の安心を支えるための三つ葉スタッフとしてお役に立てればと思っています。

余談ですが、2012年11月号で登場した「医療事務の松本」とは別人です。よろしくお願いいたします。



医療法人 三つ葉
三つ葉在宅クリニック
〒466-0015 名古屋市昭和区御器所通 3-12
御器所ステーションビル 3F
TEL 052-858-3281 FAX 052-858-3282
URL <http://www.mitsuba-clinic.jp>

三つ葉しんぶん係メールアドレス
tsubuyaki@mitsuba-clinic.jp

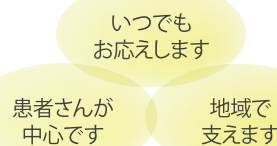


■ 私たちの理念

最高の在宅サービスを提供し
安心して暮らせる社会を創造する



■ 安心を支えるために...



三つ葉しんぶん



2013年2月号

19

「三つ葉しんぶん」は患者さん・ご家族と、三つ葉医師・スタッフの双方向通信です。

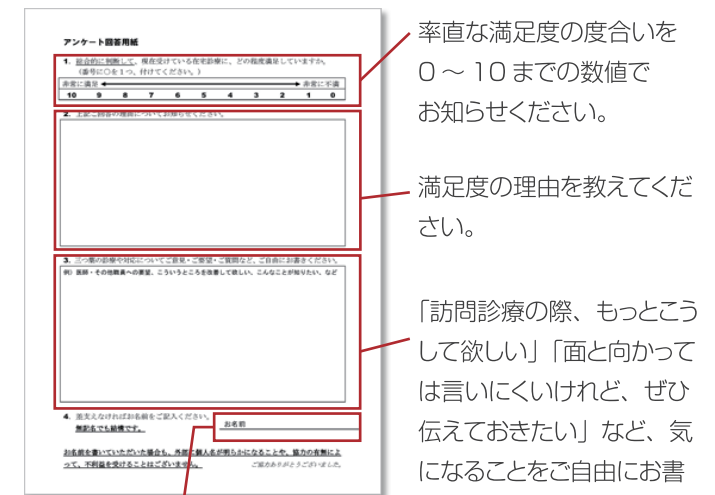
患者さん満足度調査にご協力をお願いします!

今月は、「三つ葉しんぶん」に「患者さん満足度調査」のアンケート用紙と返信用封筒を同封させていただきました。皆さんにぜひ、ご協力いただきたいと思います。

このアンケート調査は毎年行っており、長くおつきあいいただいている方々にとっては、「また?」かもしれません。しかし、クリニックにも新しいスタッフが増えてきたため、日々の業務を見直し、より良いサービスに結びつけるため、患者さん・ご家族の率直なご意見を伺いたいです。

書いていただいたコメントは職員のあいだで共有しています。普段、患者さんと接することのないスタッフにとっては、大切な“声”です。どんなことを患者さんが求めているのか、どんなときに安心感・不安感を感じるのかなど、満足度の数字だけではわからないことをたくさん感じることができます。もちろん、数字に〇をつけるだけでもかまいません。

ご多用とは存じますが、ぜひご記入いただき、ご返信ください(切手は不要です)。



率直な満足度の度合いを0~10までの数値でお知らせください。

満足度の理由を教えてください。

「訪問診療の際、もっとこうして欲しい」「面と向かっては言いにくいけれど、ぜひ伝えておきたい」など、気になることをご自由にお書きください。

- お名前のご記入は自由です。但し、
- ①ご家族の方が記入され、お名前を記入される場合には、患者さんのお名前もお知らせください。
 - ②個人的に回答または対応が必要なご要望がある場合には、必ずご記入ください。
 - ③お名前の記入によって不利益を受けることは一切ありません。

声

患者さんにご家族からのお便り

心の診察もしていただいて

主人の退院は無理ではないかといわれるくらいでしたが、自宅療養に踏み切りました。初めは支離滅裂なことを言って三つ葉の先生を困惑させましたが、いつも笑顔で、主人の話を聞いてくださいました。

私は夜中の介護で疲れてノイローゼの状態で、夜中に「もうイヤ」と叫んだこともありましたが、そんな時には、私の心の診察もしていただけたと思っています。

6カ月過ぎた今は、歩くこともでき、あまり夜も起きなくなりました。三つ葉の先生方

がついていてくださると思うだけで、心丈夫に過ごすことができます。



お便りありがとうございました。大変な時期を乗り越えられたのですね。

今月は患者さんアンケートがあるため、はがきを同封しておりません。ぜひアンケートのほうで、皆さんの率直なお声をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

在宅でよくある皮膚のトラブル ①

まだまだ寒く、空気が乾燥した日が続いています。お肌がかさかさして痒い…という不快感を感じている方もいらっしゃるでしょう。日常的な皮膚の病気にもいろいろなものがあり、その原因や症状はさまざまです。目に見えるため、とても気になってしまいますね。

今月と来月の2回にわたり、よくある皮膚の病気「湿疹」について、予防法や治療法などについてお話します。

湿疹とは？

皮膚の病気にもいろいろありますが、なかでも身近なのは「湿疹」です。皮膚の表面に起こる炎症「皮膚炎」ともいいます。

「湿疹」の症状は赤くなる、痒み、水疱（水ぶくれ）、腫れ、ジクジクする、かさぶたができる、かさついてうるこ状になる…などさまざまです。慢性化すると皮膚がゴワゴワしたり（苔癬化）、

色素沈着して黒ずんできたりします。

原因も多様で、ときには原因がわからないものもありますが、乾燥や皮膚の傷（掻き傷など）、炎症を起こす物質（細菌やウイルスなど）、アレルギー物質などに対する皮膚の反応であることが共通しています。原因や症状によって、治療法は異なります。

湿疹の原因とお薬

| (主な原因) | (主な皮膚炎) | (主な治療法) |
|------------|---|--|
| ●ウイルスによるもの | 口唇ヘルペス、 帯状疱疹 尋常性疣贅（いぼ） 麻疹（はしか）、風疹 | 抗ウイルス薬 |
| ●細菌によるもの | 蜂巣炎 伝染性膿痂疹（とびひ） | 抗生剤 |
| ●真菌によるもの | 白癬（水虫） 脂漏性皮膚炎 | 抗真菌薬 |
| ●その他 | 乾燥 かぶれ ダニ アレルギー 自己免疫疾患 | 皮脂欠乏性皮膚炎 接触皮膚炎 疥癬 アトピー性皮膚炎 |

このなかから、よくある病気をご紹介します。
茶色の皮膚炎は今月（右ページ）、**ピンクの皮膚炎**は来月（3月号）です。

痒みや炎症を抑えるお薬としては、一般的にステロイド剤や抗ヒスタミン剤が使われます。同時に、原因に直接はたらきかけることも試みます。その対処法は原因によって異なり、ウイルスであれば抗ウイルス薬、細菌であれば抗生剤、真菌であれば抗真菌薬といった具合に、使い分けています。

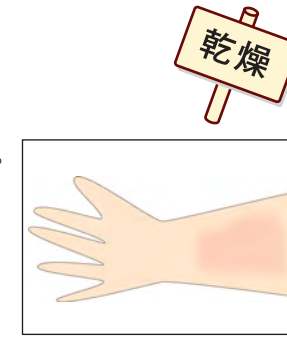
できるだけ早く症状を軽快させるため、保湿剤＋軽いステロイド剤、ステロイド剤＋抗菌剤といったミックス軟膏もよく処方しています。薬局から薬剤名の付いていないプラスチックの容器に入った軟膏をもらうことがあると思いますが、あれは複数の効果のあるお薬を混ぜたものです。



◆皮脂欠乏性皮膚炎

いわゆる「乾燥肌」です。加齢とともに肌のうるおい（皮脂分泌）が低下し、外からの刺激に敏感になり、皮膚の表面がペリペリ、かさかさして痒くなります。

治療には、うるおい成分を補うことが大切で、保湿効果のある「尿素」の入った「ウレパール」や「セラチナミン」といったお薬を使います。



予防しましょう！

予防もとにかく保湿です。意外に、お風呂の入り方がポイントになるようですね。

- ・熱いお風呂に入らない
- ・ゴシゴシと身体を洗いすぎない
- ・入浴後に保湿剤を塗る
- ・保湿効果のある入浴剤を使う など



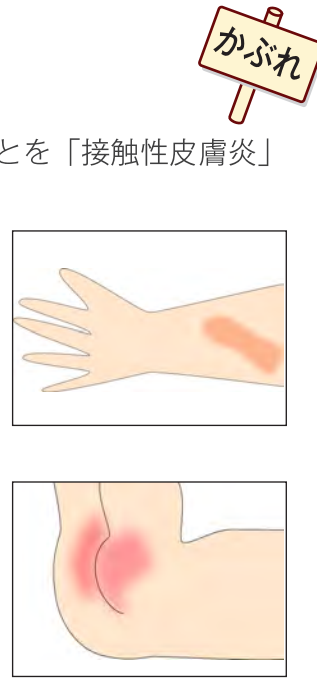
◆接触性皮膚炎

いわゆる「かぶれ」のことを「接触性皮膚炎」といいます。

金属や植物（漆など）などいろいろなものでかぶれることがあります。接触した部位に、境界のはっきりした炎症が起こります。

おむつかぶれは、大小便やおむつによる刺激などで起こります。最近のオムツは尿吸収力にはすぐれているのですが、その分ムレやすいので通気に注意したいものです。

治療には主に、炎症を抑えるステロイド剤が使われます。



在宅医療の豆知識

◆白癬

いわゆる「水虫」や「いんきんたむし」のことで、できる部位によって呼び名が異なります。足や陰部など蒸れやすいところによくできます。

「白癬菌」という真菌は、皮膚の成分であるたんぱく質を栄養源にし、人のアカが落ちているほとんどの場所に生息していて、だれにでも感染する可能性があります。



白癬の治療には抗菌薬が必要です。「ラミシール」などの外用抗菌薬を、真菌が巣食う角質層が完全に入れ替わるまで根気よく塗っていきます。数カ月かかります。

治療中は、菌をまき散らさないよう、気をつけましょう。

◆脂漏性皮膚炎

頭や顔面（小鼻の周りや額など）など皮脂線がよく発達し、皮脂の分泌が多い部位にできる湿疹です。皮膚常在菌の刺激によって、皮脂の分泌やホルモンバランスが乱れて起こります。頭のフケもこの皮膚炎の一種です。

高齢者や赤ちゃんなど免疫力の低下している人に起こりやすい炎症ですが、真菌が関与していると言われており、治療には「ニゾラール」などの抗真菌剤が使われます。弱いステロイド剤が使われることもあります。薬用のフケ取りシャンプーには抗真菌薬が入っています。

